

ミカン生育情報

千葉県
平成 27 年 10 月号

平成 27 年 9 月の気象

平成 27 年 9 月の半旬別の気象を表 1 に記した。平均気温は、第 1 半旬は平年より高く、第 2 半旬以降は平年より低かった。月平均気温は 22.0℃で、平年より 0.9℃低く、前年より 0.3℃高かった。

降水量は、第 1、第 2 及び第 4 半旬は平年より多く、第 3、第 5 及び第 6 半旬は平年より少なかった。10 日に本州に上陸した台風 18 号の影響で線状降水帯が発生し長雨となったこともあり、9 月上旬としては、昭和 43 年に観測を始めて以来最も多くなった。月合計は 449mm で、平年の 204%、前年の 368%であった。月合計値は、昭和 43 年に観測を始めて以来 3 番目に多い記録であった。

日照時間は、第 1、第 2 及び第 4 半旬は平年より短く、第 3、第 5 及び第 6 半旬は平年を上回った。月合計は 129 時間で平年の 88%、前年の 72%であった。

表 1 平成 27 年 9 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	24.9	24.8	23.2	29	25	34	25	31	34
2	23.2	24.3	22.4	278	39	23	4	28	20
3	22.7	23.7	21.4	0	25	43	39	25	36
4	20.7	22.8	20.7	102	43	2	16	22	16
5	20.4	21.4	21.1	34	48	20	24	20	34
6	20.3	20.4	21.2	8	47	0	21	20	41
平均/計	22.0	22.9	21.7	449	220	122	129	146	180

果実及び樹の生育

9 月 30 日時点での南房総市内 2 園地と暖地園研の果実の生育状況を表 2 に示した。横径、縦径の平均値は、早生温州ではそれぞれ 5.6 cm、4.5 cmで、普通温州ではそれぞれ 5.9 cm、4.4 cmとなり、横径、縦径ともに平年より小さい。川野夏柑は、横径が 8.4cm、縦径が 6.9 cmであり平年を上回っている。表 3 にこれまでの果実肥大状況を示した。いずれも肥大が落ち着いてきており、特に普通温州では横方向へ肥大している。温州ミカンの果実肥大が平年をやや下回っているのは、梅雨明け後の乾燥と 8 月後半からの日照不足の影響と思われる。8 月下旬以降、平均気温が平年を下回ることが多く、日南 1 号など極早生温州は着色が進み、早生温州も着色が始まっている樹がある。

生理障害、病害虫の発生 (暖地園芸研究所)

生理障害では、9 月前半は温州ミカン及び一部中晩柑で裂果が散見された。一部中晩柑では、果実が黄化して落果した。落果の原因は 8 月後半から 9 月前半にかけての

日照不足であると思われる。

病害虫では、果樹カメムシ類の発生がやや見られる。ミカンサビダニは、適切な防除が行われている園では発生が少ない。9月後半から果実腐敗を見かけるようになってきた。果実腐敗の原因となる病原菌は複数あり、8月後半から9月にかけて降水量が多かったことが発生を助長していると考えられる。

表2 果実の生育（平成27年9月30日）

No.	種類・品種	調査地	横径 (cm)		縦径 (cm)	
1	興津早生	三 芳	5.6	(94)	4.4	(90)
2		千 倉	5.6	(95)	4.5	(94)
3		暖地園研	5.6	(94)	4.7	(96)
4	大津4号	三 芳	6.1	(99)	4.6	(97)
5		千 倉	6.0	(94)	4.4	(94)
6		暖地園研	5.9	(93)	4.4	(93)
7	青島温州	三 芳	5.8	(94)	4.5	(93)
8		千 倉	5.8	(94)	4.4	(92)
9		暖地園研	5.9	(96)	4.4	(93)
10	川野夏柑	暖地園研	8.4	(105)	6.9	(103)
11	日南1号※	暖地園研	6.8	(-)	5.2	(-)
	平均*	早生温州	5.6	(94)	4.5	(93)
		普通温州	5.9	(95)	4.4	(94)

() の数字は平年値（平成7～26年の平均）を100とした比数

※日南1号は本年から調査 *早生温州の平均はNo.1～3の平均、普通温州はNo.4～9の平均

表3 7～9月調査の横径、縦径及び果形指数の推移

No.	品種	地点	横径 (cm)			縦径 (cm)			果形指数※		
			7/31	8/31	9/30	7/31	8/31	9/30	7/31	8/31	9/30
1	興津早生	三芳村	3.6	4.7	5.6	3.2	4.0	4.4	112	118	128
2		千倉町	3.6	4.8	5.6	3.3	4.1	4.5	111	118	125
3		暖地	3.6	4.5	5.6	3.4	4.2	4.7	108	108	120
4	大津4号	三芳村	3.5	5.0	6.1	3.0	4.1	4.6	115	121	133
5		千倉町	3.6	5.0	6.0	3.0	4.0	4.4	118	125	136
6		暖地	3.5	4.9	5.9	3.0	3.9	4.4	118	125	135
7	青島温州	三芳村	3.5	4.8	5.8	3.1	4.1	4.5	115	118	129
8		千倉町	3.6	4.8	5.8	3.0	4.0	4.4	117	121	133
9		暖地	3.6	4.9	5.9	3.1	3.9	4.4	118	125	134
10	川野夏柑	暖地	4.9	7.1	8.4	4.6	6.1	6.9	108	116	122
11	日南1号	暖地	4.5	5.8	6.8	3.8	4.7	5.2	118	123	130

※果形指数は横径÷縦径×100の値、大きいほどへん平な形

9～10月の栽培管理

樹上選果

収穫直前まで園地を見回り、大玉果、小玉果、傷果、病虫害被害果などの商品性が劣る果実を摘果して、運搬や収穫後の選果の労力を少なくする。

裂果した果実及び腐敗した果実は、病気の発生源になるため早急に取り除く。

夏秋梢の除去

今年着果量が少なかった樹で夏秋梢が多く発生している場合には、9月下旬以降に特に強い枝を間引き剪定する。夏秋梢の除去はかいよう病の防除にもつながるため、栽培に影響の出ない程度に適宜剪定する。ただし品種や系統によっては夏秋梢の除去が来年の着花に影響を及ぼす可能性があるため、事前に着花習性を調べてから行う。

早生温州の収穫

着色が良好な果実から減酸を確認し収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫後の腐敗の要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫果実の果梗枝が長い場合は切り落とし、他の果実を傷つけないようにする。また、果実を扱う時は手袋をする。

収穫直後の果実は、果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。果実をコンテナに詰め込み過ぎると下段の果実が傷みやすく、貯蔵・流通中の腐敗果実発生の原因となるため、絶対に詰め込み過ぎない。

秋肥

樹勢の回復、耐寒性の向上及び翌年の花芽分化の促進を図るため、秋肥を施用する。施肥時期が早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、遅くなると低温になるため吸収が悪くなる。また、乾燥の影響で樹勢が落ちた樹は、収穫後直ちに窒素主体の液肥を葉面散布して樹勢の回復を図る。

病虫害の防除

10月中旬～11月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。同じ系統の成分を含む薬剤の連続使用は、耐性菌が出現する恐れがあるので注意する。褐色腐敗病の常発園や発生が心配される場合は、予防的な薬剤散布を行う。今年は平年より日照が少なく降水量が多かったため、果実の腐敗発生には十分注意する。

ミカンハダニ・ミカンサビダニや果樹カメムシ類は発生に応じて防除を行う。

収穫時期が近付いているため、農薬の使用基準にある収穫前日数と使用回数に注意し、農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>